

古道 塩の道をゆく

■近江と若狭を結ぶ古道

かつて耳川沿いに新庄の谷をゆく道は、若狭と近江を結ぶ重要な役割を担っていた。現在の県道213号線は松屋集落までだが、そこから赤坂山の粟柄越で滋賀県側に降りる山道は、美浜から琵琶湖への最短ルートで、海津街道の古道でもある。

明治時代の中頃までは、木炭や海産物などの荷が新庄の道を行き交っていた。新庄地区の中ほどには、馬場という名の集落がある。複数の荷馬がいたことが伺い知れる名からも、物流の主要な道としての歴史が垣間見られる。

■平城京への「塩の道」

こうした新庄の道の歴史は、古代にまでさかのぼる。平城京跡(奈良県)の出土品の中に、それを示す木簡がある。そこには弥美郷から塩三斗を納めたことが記されていた。弥美郷は耳川の河口域と考えられている。美浜産の塩を粟柄越で琵琶湖のほとりまで運び、海津から舟で湖上輸送したと推定できる。

■若狭を守る関所 粟柄

粟柄越の名は、新庄側の峠下で粟柄村に由来する。江戸時代には、村に小浜藩直轄の関所が置かれていた。粟柄越の道は、若狭から近江に通じる道の中で、最も東に位置する。そのため、若狭国の東を守る要でもあったのだ。

その後、粟柄村は明治末に廃村となっている。鉄道が完成し、物流も一変したことで、粟柄越の山道は役目を終え、村も消えた。今、村の痕跡は何もない。ただ石碑のみが、長く峠越えの人々を支えた村があったことを伝えている。

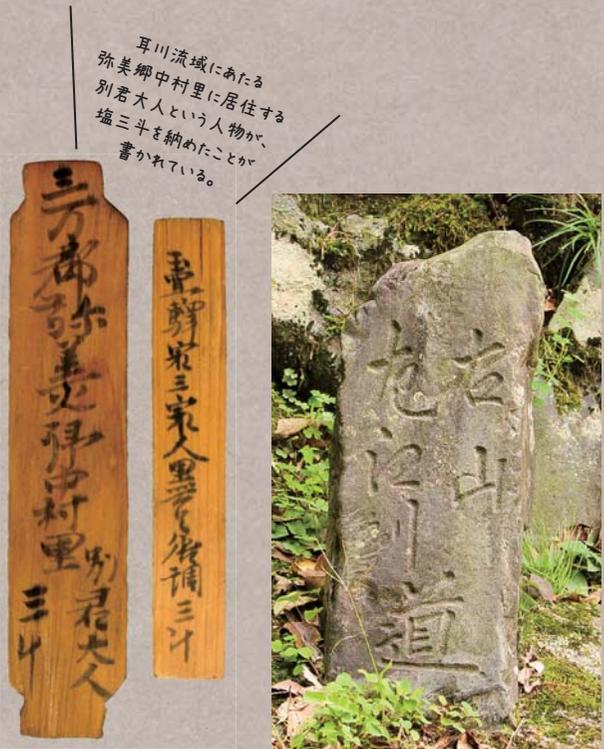
※車の通行は赤坂山駐車場まで。それより先は徒歩による登山道



耳川支流の合流点にある松屋集落。急な坂を少し登ると、石垣の印象的な景観が目にとらえる



赤坂山の粟柄越への峠下にある「史跡粟柄関所跡並びに粟柄村跡」の碑



平城京出土 木簡

松屋集落に残る道標が道の歴史を物語る



美浜町の「文化遺産カード」の1枚「弥美郷の木簡」。美浜町歴史文化館で入手できる。

歴史の面影 まちかど点描

若狭湾

耳川右岸に続く道は、かつて近江に通じていたんだよ。若狭美浜の産物がこの道を通して都にも運ばれていたんだ。

そんな新庄の歴史の面影をたどってみるのも面白いね。



耳川上流に広がる水源の森

若狭美浜
新庄やまびこ
ふれあい湧水
平成29年11月15日
「ふくいのおいしい水」
に認定されました。



街道沿いにたたずむ
趣きのある民家

西国八十八ヶ所と三十三ヶ所礼拝所の観音堂。街道をゆく人々と新庄の歴史を見守ってきた石仏が安置されている。



近江と結ぶ街道の中間拠点となっていた馬場集落

日吉神社



水地に鶴亀模様を描いた珍しい火災除けの意匠がある土蔵。田代集落



ピラミッド状に積まれた古い墓石は若狭ならではの風景。田代集落の松月寺境内



松屋集落。旅人たちは、ここで峠越えの支度をしたのだろうか



滋賀県高島町
マキノ高原

粟柄関所の跡。若狭美浜から近江へ通じる重要な道として、関所が置かれていた

※右岸：河川を上流から下流に向かって眺めて右側が右岸、左側が左岸